

試料・情報利用研究計画書(概要)

審査委員会 受付番号	2020-2011	利用 形態	内部研究	利用する 試料・情報	対象:三世代コホート調査に参加した児で、社会性発達評価検査(視線計測装置(®Gazefinder)による計測)実施者 約7,000人 試料:なし 情報:基本情報、調査票情報、ゲノム情報、社会性発達評価検査情報		
主たる研究機関	東北メディカル・メガバンク機構			分担 研究機関	—		
研究題目	視線に関する遺伝的・生物学的特徴の解明			研究期間	2020年10月～2022年3月		
実施責任者	呉 繁夫	所属	東北メディカル・メガバンク機構		職位	教授	
研究目的と意義	<p>東北メディカル・メガバンク計画三世代コホート調査の詳細二次調査にて実施された社会性発達評価検査(=視線計測装置(®Gazefinder)による視線指標計測)データを用い、視線に関する遺伝的・生物学的特徴を明らかにすることを目的としています。</p> <p>“視線”は、コミュニケーションにおける重要なツールであり、その個人間の差異は乳幼児期より認められることが分かっています。対人コミュニケーションに困難さを認め、幼少期から視線が合いにくいとされる自閉スペクトラム症は、その詳細に関して明らかにならず、病態の解明が望まれている疾患です。本研究を通じ、自閉スペクトラム症の発症機序を解明することも目指します。</p>						
研究計画概要	<p>本研究では、東北メディカル・メガバンク計画三世代コホート調査に参加し、地域支援センターにて詳細二次調査のうち、社会性発達評価検査(=視線計測装置(®Gazefinder)による視線指標計測)を受けた児を対象とし、既存のコホート調査で収集済みの情報から年齢・性別等の基本情報や調査票調査情報、遺伝情報の違い(SNPs)を用いた解析を実施します。</p> <p>対象の方全員のデータを集約し、視線指標計測データと発達特性との関連ならびに遺伝情報の違いが起こる関連を解析いたします。解析により得られた視線指標と遺伝情報との関連を既知の自閉スペクトラム症関連遺伝情報のデータベースと照らし合わせることで、視線という表現型の持つ遺伝的背景ならびに自閉スペクトラム症との関連を評価します。</p>						
期待される成果	<p>本研究は、自閉スペクトラム症の中核症状に関連する“視線”の差異について遺伝的、生物学的要因を明らかにするもので、ASDの予測バイオマーカーの可能性を探索する基盤情報として価値が高く、また自閉スペクトラム症の病態解明に寄与することが期待されます。</p>						
これまでの倫理 審査等の経過	2020年10月 東北メディカル・メガバンク機構倫理委員会承認						
倫理面、セキュリ ティー面への配慮	ヒトを対象とする医学系研究の倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理指針、ToMMoセキュリティポリシーを遵守して研究を遂行し、高度なセキュリティが担保された東北メディカル・メガバンク機構スーパーコンピュータ内で解析を行う。						
その他特記事項	東北メディカル・メガバンク事業						
* 公開日	令和2年11月10日						